

事務連絡
令和5年12月26日

各都道府県建設業協会
事務局 御中

一般社団法人全国建設業協会
事業部

第10回世界水フォーラムへの協力について（協力依頼）

平素は本会の活動に対しまして格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

今般、国土交通省水管理・国土保全局より、別紙のとおり協力依頼がありました。

世界水フォーラムは、政府機関、国際機関・企業・NPO等、世界中の水に関する関係者が一堂に集い、水と衛生に関わる様々な問題への対処について議論を行う国際会議であり、1997年から3年に1度開催され、次回の第10回は2024年5月18日～24日にインドネシアのバリにて開催予定です。

同フォーラムでは、期間中、展覧会（エキスポ）が開催される予定であり、その中で「日本パビリオン」が設置され、水に関する我が国の取組や、これまでの海外での協力等について発信されており、近日中に出展募集が始まります。

つきましては、ご多忙の折、誠に恐縮ですが、水関連の自社技術を世界にPRできる良い機会となりますので、貴会会員企業の皆様へ周知賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、出展に関する費用等の詳細は日本水フォーラムのホームページをご確認ください。

<https://www.waterforum.jp/what-we-do/wwf/>

【添付資料】

国土交通省からの協力依頼文

日本水フォーラムからの案内資料

以上

（担当）事業部 森島

TEL 03-3551-9396

FAX 03-3555-3218

メール jigyo@zenken-net.or.jp

令和5年12月19日

一般社団法人 全国建設業協会 御中

第10回世界水フォーラムへの協力について

国土交通省 水管理・国土保全局
水資源部長 中 込 淳

平素より、国土交通行政へのご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2024年5月18日～24日に第10回世界水フォーラムがインドネシアのバリにて開催されます。世界水フォーラムは、政府機関、国際機関・企業・NPO等、世界中の水に関する関係者が一堂に集い、水と衛生に関わる様々な問題への対処について議論を行う国際会議であり、1997年から3年に1度、開催されており、第3回世界水フォーラム以降、我が国として積極的に参画しております。

同フォーラムでは、期間中、展覧会（エキスポ）が開催される予定であり、その中で、これまでも官民一体で「日本パビリオン」を設置し、水に関する我が国の取組や、これまでの海外での協力等について、発信してきたところですが、第10回においても、積極的な発信に努めていくところです。

官民一体となった発信に努めていきたいと考えているところ、貴協会の会員の皆様におかれましても、積極的にご検討いただけると幸いです。宜しく申し上げます。

「第10回世界水フォーラム 日本パビリオン」への出展等についてのごお願い

日頃より日本水フォーラムの取組みに関し、ご理解・ご協力をいただきありがとうございます。

さて、水に関する世界最大級の国際会議として、**世界水フォーラム**（詳細：次ページ）が**2024年5月にインドネシア（バリ）において開催**が予定されています。

世界水フォーラムでは、世界中の水に関する関係者が一堂に集い、水と衛生に関わる様々な問題（水災害を含む）への対処について議論されます。**第3回の日本開催を契機に参加国数、参加者数が増え、今回は参加者数が1万7千人以上が見込まれるなど、注目度が高まりました。**

第10回となる今回は、**水に関する議論の場が設置**されるとともに、**“展示会”が開催される予定**であり、日本は、**官民合同の日本パビリオンの設置を進めている**ところです。

インドネシアは、長年、ODA等で協力体制を構築している国であり、現在の世界4位の数を誇る人口は、今後も増えることが見込まれています。また、**首都移転に向けた準備も進められており、インフラの整備についても活発な状況**です。

ついでには、この**世界水フォーラムにおいて、日本が有する経験・技術を発信し、SDGs等の国際目標達成への貢献や世界の水問題の解決への貢献を通じ、日本の存在感を国際社会に示すとともに、水関連技術の海外展開に資することを目指しています。**インドネシアのバスキ大臣からは、**展示会を含めた世界水フォーラム全体に対しての、日本の積極的な協力・参加を期待する旨の発言があった**と聞いています。

つきましては、**この度、展示会の準備についてご案内したく、現状をまとめました。**

今後は、出展をご希望される企業・団体様へ、出展募集に向けたご案内を行っていく予定です。

現地での参加がむずかしい場合も、動画上映等の手段により周知が可能となっています。

ご多用のところ恐れ入りますが、ご一読・ご出展のご検討等のほど、何卒宜しくごお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 日本水フォーラム

(パビリオンに関するお問合せはこちら)

日本水フォーラム パビリオン担当 天野、常宗、福田、浅井

TEL : 03-5654-8040 mail : jwf-world10th@waterforum.jp

* (ご参考) 日本水フォーラム ホームページ
「第10回世界水フォーラムへの参画」について



日本水フォーラム
ホームページ

【世界水フォーラム概要】

- 主催者:世界水会議(WWC)※
- 参加者:各国元首・閣僚級を含む政府機関、国際機関・企業・NPO等
- 3年に1度、世界水の日(3月22日)前後に開催
- 世界中の水に関する関係者が一堂に集い、水に関わる様々な問題への対処について議論。第3回の日本開催を契機に参加国数、参加者数が増え、注目度が高まった。
- これまで、日本より皇太子殿下(当時)のご臨席、ビデオメッセージによる天皇陛下のご参加をいただいているところ

※水分野の専門家や国際機関の主導のもと1996年に設立された国際NGO

【開催状況(開催地・参加国・参加者数)

(主催者発表)

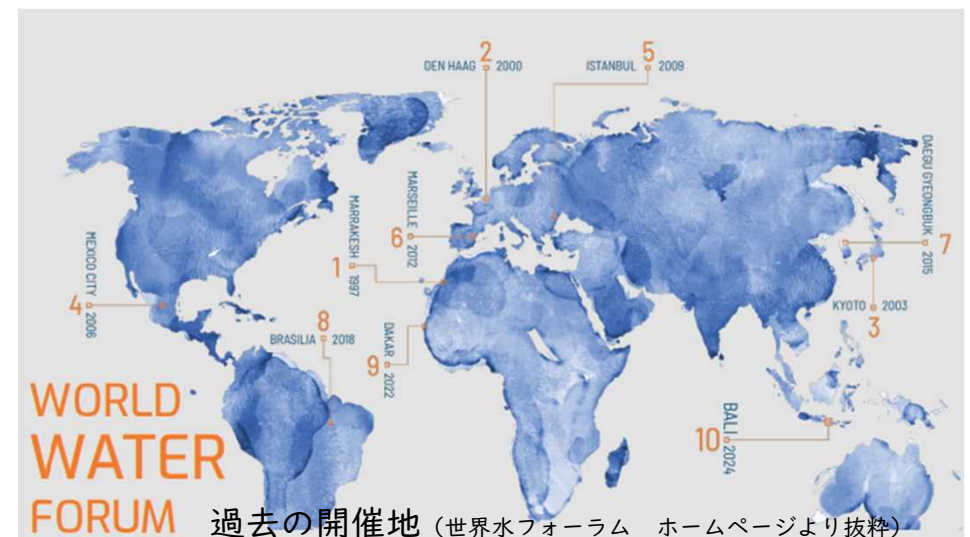
第1回	(1997)	モロッコ	63カ国	500人
第2回	(2000)	オランダ	114カ国	5700人
第3回	(2003)	日本	183カ国	24000人
第4回	(2006)	メキシコ	168カ国	19700人
第5回	(2009)	トルコ	192カ国	30000人
第6回	(2012)	フランス	173カ国	35000人
第7回	(2015)	韓国	168カ国	40000人
第8回	(2018)	ブラジル	172カ国	10000人
第9回	(2022)	セネガル	(未発表)	
第10回	(2024)	インドネシア		

【日本の参加目的】

- 多くの参加者が水をテーマに集まる世界水フォーラムにおいて、日本が有する経験・技術を発信し、SDGs等の国際目標達成への貢献や世界の水問題の解決への貢献を通じ、日本の存在感を国際社会に示すとともに、水関連技術の海外展開に資する。



日本パビリオンの様子(第7回世界水フォーラム)



【第10回世界水フォーラム】

・開催日 : 2024年5月18日~24日

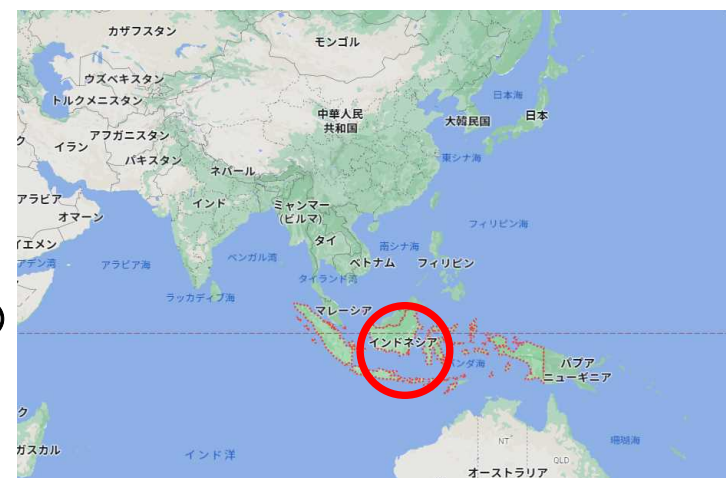
・会場 : インドネシア・バリ ヌサデウアコンベンションセンター

・テーマ : water for Shared Prosperity (繁栄を共有するための水)

・プログラム : 公式セッション、ハイレベルパネル、テーマ別セッション
特別セッション、サイドイベント、展示・フェア等

・参加者 : 世界各国の政治家、多国籍機関、学術、民間部門等から17,000人以上の見込み

・公式サイト: <https://worldwaterforum.org/>



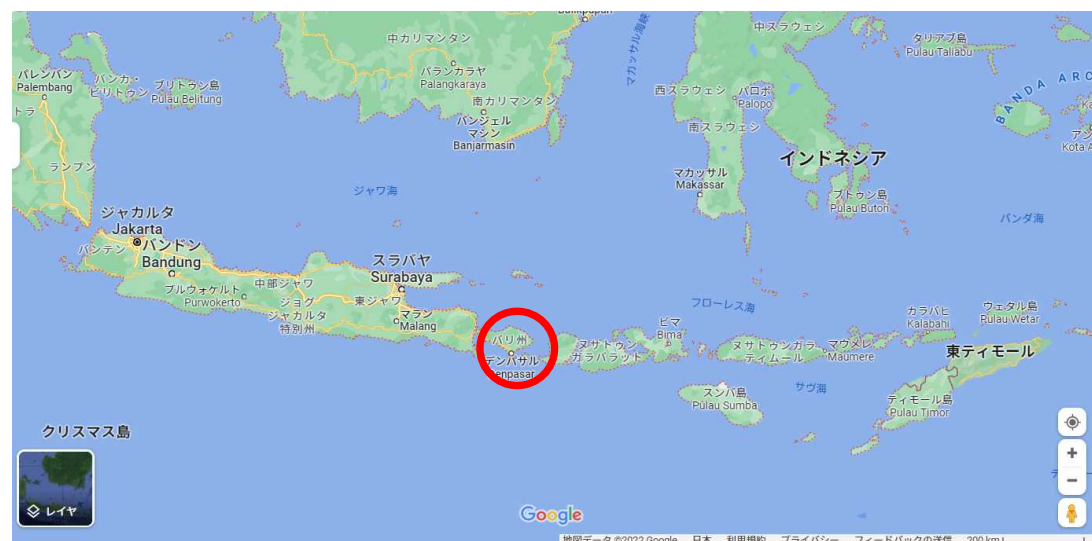
【開催地インドネシアの概要】

➤ 人口: 約2.70億人

➤ 面積: 約192万 km²

➤ 言語: インドネシア語

➤ 1人当たり名目GDP: 4,349.5米ドル
(2021年、出典: 外務省HP)



メインテーマ: 繁栄を共有するための水

人類と自然のための水
水の安全保障と繁栄
災害リスクの軽減と管理
協力と水外交
水の革新的なファイナンス
知識とイノベーション

共通の課題: 気候変動、人口増加、都市化、エネルギー危機、土壌・大気汚染等
横断的な目標達成手段: ガバナンス、科学と技術、革新、ファイナンスと投資、協
力とパートナーシップ、政策策定、循環型経済、教育・能力開発



政治プロセス

- ・国家元首
- ・閣僚
- ・国会議員
- ・地方自治体
- ・流域自治体



テーマ別プロセス

- ・人類と自然のための水に関するトピック
- ・水の安全保障と繁栄に関するトピック
- ・災害リスクの軽減と管理に関するトピック
- ・協力と水外交に関するトピック
- ・水の革新的なファイナンスに関するトピック
- ・知識とイノベーションに関するトピック



地域プロセス

- ・地中海
- ・アジア太平洋
- ・定義中
- ・定義中
- ・定義中

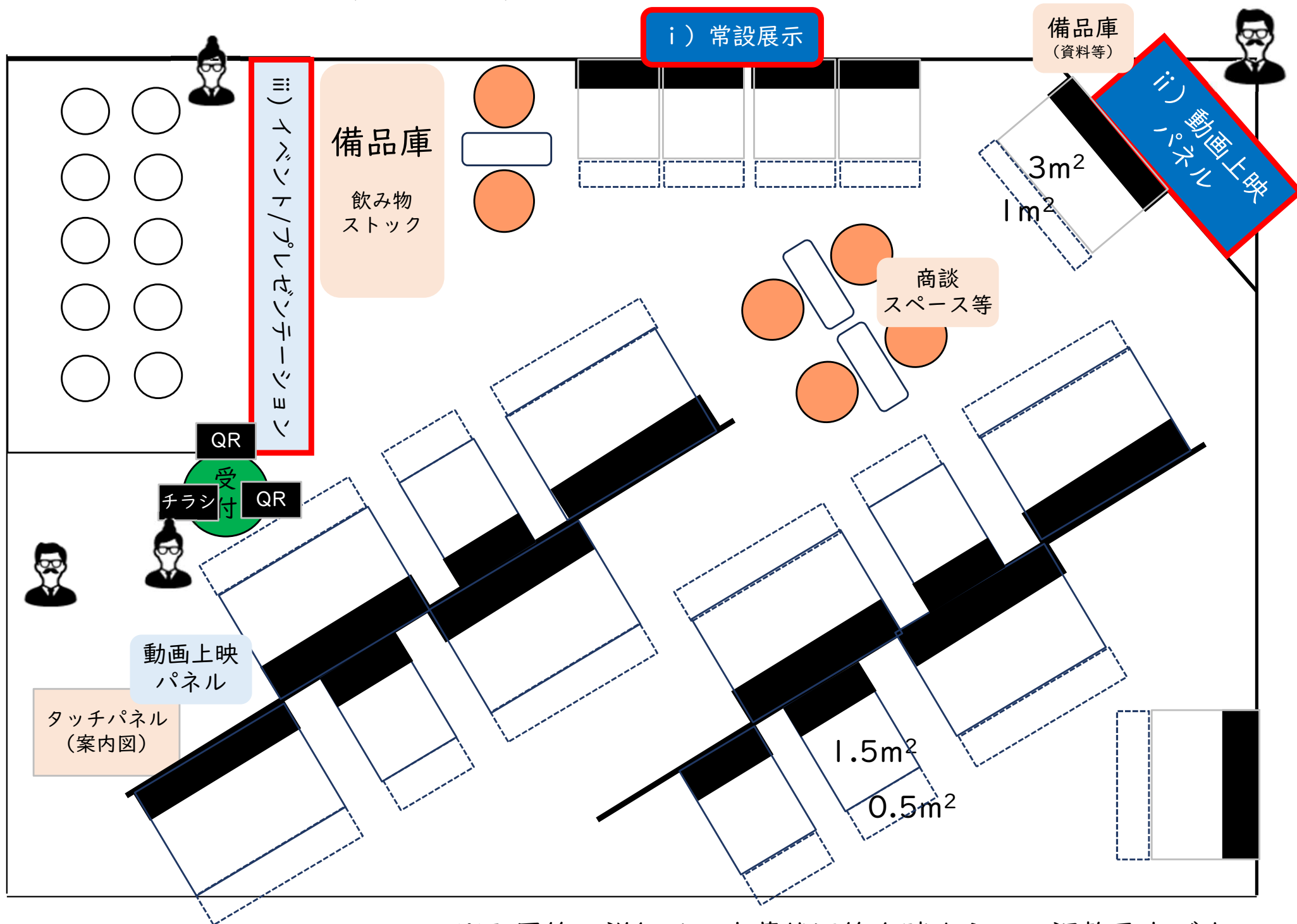
世界水フォーラムは、主に、3つのプロセスと展示会（パビリオン）で構成。

Provisional Agenda the 10th World Water Forum

DAY/DATE		DAY 1	DAY 2	DAY 3	DAY 4	DAY 5	DAY 6	DAY 7	
		Saturday, May 18, 2024	Sunday, May 19, 2024	Monday, May 20, 2024	Tuesday, May 21, 2024	Wednesday, May 22, 2024	Thursday, May 23, 2024	Friday, May 24, 2024	
Time	Morning	Registration		166 Sessions [Plenary, Side Event, Parallel Event, and Special Sessions] Thematic, Regional, Political Process				Closing Ceremony 1. Country Statement & Declaration 2. Synthesis of Work (Political, Regional, Thematic) 3. Towards 11th World Water Forum	
	Afternoon		Opening Ceremony					Thematic Summary	Fieldtrip
	Evening		Welcome Dinner GWK					Farewell / Cultural Night	
	All Day		Fair & Expo						

※世界水フォーラムの開催期間は、5/18～5/24。
うち、展示会は、5/19～5/23の5日間の予定

パビリオン レイアウト (イメージ※)



※配置等の詳細は、応募状況等を踏まえて、調整予定です。

<(出展形態 i)常設展示での出展>

(料金について)

【4㎡の場合】：1枠あたり、220-250万円程度を予定 ※

【2㎡の場合】：1枠あたり、130-150万円程度を予定 ※

(共有スペース(商談スペース等)※の利用も可能とする予定です)

※通行の妨げにならない範囲で、周辺の通路等の利用含む



出展形態 i のイメージ

<(出展形態 ii)動画上映での出展>

(料金について)

・1枠(10分の放映※)にあたり、30万円程度を予定 ※

※1枠の応募で、1日あたり2回以上上映するよう、プログラムを構成予定です。

(その他)

- ・事務局が上映を担当いたします。現地出張ができない場合でも、出展いただけます。
- ・作成いただいた動画は、別途、オンラインを活用するなど、視聴機会を拡大予定です。

<(出展形態 iii)イベント、プレゼンテーションスペースでの出展>

(料金について)

・1枠(30分×3コマ=90分)あたり、40万円程度を予定 ※



出展形態 iii のイメージ

★上記のほか、

- ①日本パビリオンの窓口・案内場所として、総合受付を設置予定です。
- ②インドネシア語・英語でのコミュニケーションを補助する運営スタッフを配置予定です。

★今後、出展募集を開始致します。詳しくは、日本水フォーラムホームページをご覧ください。

★お支払いのタイミングは年度内と年度明け(例えば2月末と4月末)のように、複数にする予定です。



①意義：水に纏わる日本の技術やサービス、日本企業のESGへの取組み等を世界へ発信します。

②手段：(a)日本パビリオン内でのモニター上映、動画拡散
(b)日本水フォーラムウェブサイトの特設ページの活用（検討中）

③メリット：

- 第10回世界水フォーラム参加者は、**17,000人以上(主催者発表)**を見込んでおり、**日本パビリオンへの動員数は、のべ4,000人規模を想定**しています。
- 1枠（10分）の応募で、開催期間（5日間）を通して、**受付近くの大型モニター（43"×2枚）で1日あたり2回以上※、上映いたします。**（Min. 20分/日×5日間）
※上映プログラムの調整やモニターの増設により、上映回数の追加を検討中です。
- **事務局が上映を担当いたしますので、現地出張ができない場合でも出展いただけます。**
- **作成いただいた動画は、パビリオン来訪者はじめ、日本水フォーラム現地出張者が交流する方々に幅広く配布するほか、かつ、日本水フォーラムの特設ページで掲載する等、別途、視聴機会を拡大いたします。**
- 先般実施した意向調査結果を踏まえ、出展者さまの負荷を軽減しつつ、日本の技術やサービス等をより広範囲に発信するため、**動画上映に関する出展料金を抑えることを検討**しています。
現地参加の方はもちろん、日本からの出展参加をお待ちしています。

(a) 日本パビリオン内でのモニター上映、及び動画拡散:



パビリオン内の複数のモニターにおいて、
水に纏わる日本の技術やサービス、日本企業のESGへの
取組み等を世界へ発信します。



日本パビリオン製作イメージ (写真は第7回の様子)

*パビリオン来訪者等々に積極的に情報展開。

+



パビリオン参加者に対する、QRコード
の配布等により、手元の携帯等でも
閲覧可能とし、機会を増加させます。